

私と音楽療法

和・ハーモニー音楽療法研究会
会員 新屋 保 則

私は今、難病 ALS と共に暮らして居ます。発病してから 20 年を迎える事が出来ました。

初めの頃は、病名も理解できず辛い毎日でした。人とはお会いして話す事も辛く、涙しながらの暮らしでした。治療薬もない等、この病を少しずつ理解出来る様になりました。以来、入退院の繰り返しでした。その間、病院の先生、看護師さんの優しいお声掛けでどれだけ救われたか計り知れません。私を取り巻く医療体制の札幌医大、医療大学、札幌大谷大の先生、学生さん、保健師の皆様の支えに心から感謝しています。在宅療養して居る時、私を訪ねてくれた看護学校の学生さんで、今、その中の 7, 8 人の方が先生や看護師に成られ、多くの患者さんを支えてくれている事に感謝しています。病状の進みが早い患者さんが居る中で、私の進行は比較的遅く、とても助かっています。今は、日本 ALS 患者会北海道支部の皆さんのお世話に成って運営委員として、少しでもお役に立ちたく参加して居ます。

<今、私は音楽療法と共に生きる>

北海道 ALS 患者会に参加して居る時に「和・ハーモニー音楽療法研究会」に出会いました。

発病してから、6~7 年の頃です。最初のうちは本当に研究会でした、札幌市内の患者さんのお宅にお邪魔しての会で、当時、大谷短大教授の中山ヒサ子先生とアシスタントの方々に月に、1, 2 度くらいのものでした。皆さんお仕事をお持ちなので仕事が終わってからの活動です。楽器機材持参で患者さんのお宅を訪問し、午後 6 時頃から 1 時間くらいでした。私がお邪魔した患者さんは、呼吸器を付けて在宅医療されていました。患者さんの様子を見ながら音楽を聞いて頂く。何名かの患者さん宅に訪問したことで、私も音楽療法を少しずつ理解出来るようになりました。寝たきりの患者さんの笑顔、動かなった手、指が動いている、笑顔がとてもよく、音楽の力を少しずつ信頼できる様になりました。私は、富良野からの通院に合わせての参加で、一泊して次の日は診察を終えて帰る日々が続きました。

<一番、音楽の力を感じたこと>

私の家は農業をして居ます、発病以来、月に3,4度の通院をして居ます。夏は無理のない範囲で、息子の稼業、農業を手伝うことで自分の病をコントロール出来るようになっていました。ですが、冬に成ると何もする事が無く、精神的に辛く、ウツに成りかけていて私にとって嫌な季節でした。でも今は、音楽療法のお陰で、いつも心癒され、泣く事も無くコントロールできている事に感謝して暮らせています。

「和・ハーモニー音楽療法研究会」は2010年にNPO法人に成りました。和・ハーモニー音楽療法研究会と名付けていただいたのは、故日野原重明聖路加国際病院理事長先生でした。お蔭様で私は、先生に何度もお会いする事ができ、優しいお声掛けを頂き生きる力をいただきました。今でも先生が100歳過ぎてもお立ちになって1時間過ぎる講演をされていたお姿が、私の心に残っています。現在研究会の会員は180名程です。中には90歳を過ぎ参加されている方も多く居られるのに驚きです。音楽を聴く事、歌う事で楽しく過ごして長生き出来ると思います。日野原先生のように105歳を目指して、私は今年で76歳ですが、これからも皆さんのお力を頂き、強く生き抜きます。今後も宜しくお祈りします。

※このメッセージは北海道支部運営委員の新屋保則さんが、NPO法人 和・ハーモニー音楽療法研究会が発行する「おとの和・ひとの輪たより」に寄稿したものです。

『歌の翼隊』は訪問音楽療法を行っています。

公費負担医療等の申請期間延期に関するお知らせ

4月15日に提出しておりました、指定難病の医療費助成に必要な医療受給者証の更新の有効期限1年延長の要望に対し、厚労省難病対策課より連絡がありましたので取り急ぎお知らせいたします。

全国の受給者（令和2年3月1日から令和3年2月28日までの間に有効期間が満了する者に限る。）を対象に、有効期間の満了日を原則として1年間延長することとしています。 ※日本ALS協会ホームページより。